

# 日本液晶学会誌執筆要項

(平成26年12月改訂)

## 1. 原稿

1.1 本会提供のテンプレートを使用して原稿を作成すること。

## 2. 本文

2.1 文章は現代仮名遣いで作成すること。

2.2 学術用語は原則として文部科学省の「学術用語集」および日本学術振興会情報科学用有機材料第142委員会液晶部会編「液晶辞典」に従う。

2.3 見出しの番号の付け方は、テンプレートの仕様見本に従うこと。

2.4 数字の位取りはしないこと (1,858とせず1858とする)。

2.5 単位はSI単位を使用すること。

2.6 引用文献は、本文中の引用する箇所に<sup>1), 2,3), 4-7)</sup>のように上付きの通し番号で記載し、下記の形式に従って文末にまとめて記載すること。また、同一著者かつ同一雑誌名であっても巻、最初の頁数が異なる場合は、別々に記載すること。

### 学術雑誌の場合

1) 山口太郎, 宮崎花子, 液晶, **8**, 5 (1980).

2) F. Leinitzer, *Monatsh. Chem.*, **9**, 421 (1888).

・『著者名全員, 雑誌名, 巻, 最初の頁数 (発行年).』の順番で記載する。

・雑誌名の略称は, ISOに従う。

・巻の番号は太字とする。

### 本の場合

1) 竹田政民, 「液晶高分子」(飯田一賢, 浅田忠裕, 阿部明編), p. 1 (1988), シグマ出版, 東京。

2) P. G. de Gennes and J. Prost, *The Physics of Liquid Crystals* (Oxford University Press, Oxford, 1995) 2nd ed., p. 20.

・和文では『著者名全員, 「題名」(編者名), 頁数 (発行年), 出版社, 出版地.』, 英文では『著者名全員, 題名 (出版社, 出版地, 発行年), 頁数』の順番で記載する。

・和文題名のみを「 」付きとする。

### 学会要旨集の場合

1) 液晶花子, 2000年日本液晶学会討論会予稿集 (2000).

2) T. Yamaguchi and H. Akita, *Ext. Abstr. 20<sup>th</sup> Int. Liquid Crystal Conf.*, 2000, p. 30.

・“International,” “Proceedings,” “Conference”などは略称を用いる。

### 特許の場合

1) A. C. Smity, U.S. Patent 3390940 (1988).

2) 香川四朗, 神奈川五郎, 大阪六実, 秋田七菜子, 特開2006-2012345.

### 学位論文の場合

1) 液晶太郎, 東京大学工学系研究科博士論文 (2014).

2) H. Kagawa, Dr. Thesis, Faculty of Science, University of Tokyo, Tokyo (2002).

2.7 原稿の長さは, その種類により投稿規定 (3.2) に定めるとおりとする。

26字×48行×2段=2444文字が, 1ページ相当となる。

ただし, 第1ページは, タイトル・著者名・アブストラクトを考慮すること (標準的には記事種別ロゴ: 208文字, タイトル: 104文字, 著者名: 52文字, キーワード: 52文字, 脚注 (著者情報): 130文字, その他: 156文字相当となる)。

2.8 総説・解説などの記事の中で, 主たる主張と関係の薄い計算式誘導過程, 装置の詳細などについて, 記事の末尾に付

録を掲載することができる。この際、図表の番号は、本文と切り離して付す。

- 2.9 若手研究者の紹介は基本的には写真を掲載する。ただし必須ではなく、本人からの申し出があった場合には不掲載とする（写真：130文字相当）。

### 3. 図表

- 3.1 写真は図として取り扱う（写真・図の推奨解像度：写真600dpi、図1200dpi以上を目安とする）。
- 3.2 図表の番号は、図1、図2…、表1、表2…とし、通し番号を付す。
- 3.3 総説・解説記事の図表番号、図表中の文字および説明文は、英文とする。
- 3.4 カラー図版は、Web公開に限って認める。解像度は600dpi以上を目安とする。但し、冊子体はモノクロ印刷されることを考慮して作成すること。
- 3.5 他文献からの図表の引用時には、必ず引用文献番号を説明文に付し、併せて著者の責任のもとに引用の許諾を得ること。
- 3.6 図表はパワーポイント、PDFなどで文章とは別のファイルに出力すること。
- 3.7 図表の希望配置位置がある場合は、挿入希望位置にページ右余白に示すこと。ただし、配置によっては希望どおりにならないこともある。

### 4. 記事の要旨

- 4.1 総説・解説の記事には英文要旨（タイトル・著者名を含めて約200語）とその和訳、および3～5語の英文・和文それぞれのキーワードを付けること。
- 4.2 英文要旨の構成は、記事の対象範囲、研究手段や方法、新しい事実、現象とその解釈、結論の順にするのが好ましい。